



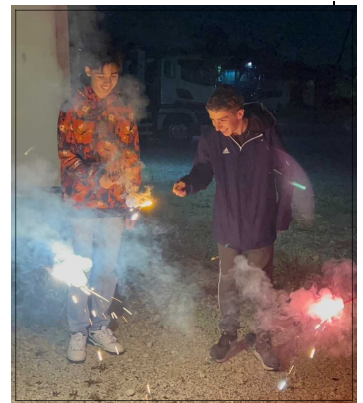
## **Bienvenue au Miki! (2)**

9日(木)の晩、生徒19名のクロミ工訪問団が旅立っていきました(写真右)。その様子は随時学校HPで紹介されていますが、彼らの留守の間に、クロミ工訪日団の話の第2弾を紹介します。

ホームステイを受け入れてくれた生徒諸君が、以下のような感想を寄せてくれました。写真とともに抜粋して紹介します。



フランス人と回った大阪やユニバ、姫路城などとても楽しい機会になったし良い思い出になりました。三木の金物では自分も知らないようなことをフランス人と共に学ぶことが出来ました。最終日の授業では、色々な人とコミュニケーションをして三木高校の好きなところ、クロミ工高校には文化祭や体育祭がないことなどを知ることが出来ました。どんどんと近づいてくるお別れの時など、長いようでとても短い1週間で、自分がフランスに行く時までには少しでもコミュニケーションを楽に取れるように頑張ろう!と思えるようなこともありました/私は今回の研修では、家の電気のスイッチにフランス語でどこの電気なのかを示しておくなど家ではゆっくりして欲しいので迷わないよう工夫しました。また、翻訳アプリに頼りすぎないように意識しましたが、英語があまり聞き取れなかったりした時に使っていたので頼りすぎたかもしれません。それでも言えなかった英文を覚えて通じるか試して成功した時はとても嬉しかったです。今回の研修を通して、英語の必要性を身をもって感じたので、改めて英語を勉強し直そうと思いました/今回初めてホームステイ受け入れをして、普段触れ合えない外国の人と生活できてよかったです。姫路城に行った時は自分の友達とフランスの留学生の友達とで仲良くすることができて良かったです。写真を撮ったり、お土産を買ったり、三木の町について改めて見たり学ぶことができたので良かったです。フランスの子も楽しんで、興味を持ってくれたので嬉しかったです。お土産としておそろいのキーホルダーを買って渡したら笑って喜んでくれたのがとても嬉しかったです。夜は彼女が好きなゲームをして遊びました/夜に友達のところと4人で花火をしました。フランスでは花火は珍しいと聞いていたので、花火をしたいと思っていて、ナタンもジュールも楽しそう花火に興奮していたので、花火をして良かったなと思いました。それからドン・キホーテに行ってワンピースのグッズを買いに行ったり、ゲーセンに行ったらクレーンゲームをしたり、明石海峡大橋の夜景を見に行ったりして、いっぱい楽しい思い出が作れたし絆も深まったと思います/最初は、お互い緊張していて三木駅から家に帰る車内ではあまり話せなかったけど、土曜の夜に友達を呼んで一緒にバーベキューをしたりゲームをしたりして、だいぶ仲が深まったと思います。事前にインスタのDMで「日本の何が好き?」と聞いた時、「日本の自然とアニメが好き」と言っていたので、日曜日は出石の自然がいっぱいあるところに行きました。行きの道は山とかの緑が多くて、ジュールが窓からその景色を撮ってインスタに投稿したりしてい



たので来て良かったなと思いました。出石では一緒に絵付け体験をしたり、出石そばを食べたり、出石神社の長い階段を登って、日本の文化をいっぱい体験してくれて、楽しそうだったので良かったです／放課後に他のホストの子たちともご飯を食べに行ったりして、自分のホストの子以外とも仲良くなれたのでたくさんの人と会話ができ、日本語を教えたり逆にフランス語を教えてもらったりいい経験が出来ました。このホームステイ受け入れをしたお陰で、家族との会話もいつもより増えたと学校内でも新しい友達ができたりと、ずっと楽しみにしていた国際交換がついに出来て幸せな一週間だった。



## 「モンゴル文化交流に参加して」

1年国際総合科 赤松 昊芽こうが

私は10月22日から27日まで「日本モンゴル青少年文化フェスティバル」に参加するため、モンゴル・ウランバートルにある小中高一貫の公立学校と大学へ行き、日本舞踊の公演をしてきました。

初日の日本舞踊のワークショップでは私も大変緊張していましたが、扇子の使い方を伝えるときは、英語やモンゴル語を使って積極的に説明をしたら、相手も理解をして上手に扇子を使ってくれ、踊っているとみんなの緊張も取れて楽しそうに笑顔で「ありがとう」と言ってくれて嬉しかったです。

公演会では、モンゴルの踊りを初めて観ました。私も平和を願い、日々の稽古の成果を心を込めて踊り、力強く発揮することが出来ました。

慣れた頃に帰国でしたが、他国を知ることはとても大切だと感じました。

今回は、とても貴重な経験ができ、私はもっと世界を見てみたいと思いました。



\*\*\*      \*\*\*      \*\*\*      \*\*\*      \*\*\*      \*\*\*      \*\*\*

11月5日は「津波防災の日／世界津波の日」でした。嘉永7年（1854年）11月5日の安政南海地震で和歌山県を津波が襲った際に、稲に火を付けて、暗闇の中で逃げ遅れていた人々を高台に避難させて命を救った「稲むらの火」の逸話にちなんだ日です。

今年の防災の日（9月1日）は、関東大震災発生から100年に当たる日でした。

「防災の日」・「防災週間」等は、地震だけでなく、災害全般への対応を啓発するためのものです。この時期に来襲が多い台風への対応は「毎年のこと」で「予測可能」なので誰もが対応しますが、「いつか必ず来る」けれども「確実な予測が不可能」な大地震に、「自分ごと」として対応している人は少ないのではないのでしょうか。関東大震災から100年となる今年、「30年以内に70～80%の確率で遭遇する『南海トラフ巨大地震』への備えを、各自が少しでも見直すことを期待します。（探究活動でも扱っては？）

また、台風や大地震は、「世界のどこでも起こること」ではありませんし、その原因を考えると、当該地域は災害だけでなく様々な恩恵も受けていることが分かります。Globalな視点で、自然災害と人々の暮らしについて、「他の地域の状況」や「日本と他の地域との比較」を探究するのも面白いのでは。（2学期以降、様々な海外との直接交流が始まっているので、情報収集のチャンスです。）

〔国際・探究推進部長 田尻 淳〕